

とくは書と川中嶋より得ぬ我所持仕の明目も  
我亦相果ゆを後准人の手より渡りし事も味おりらぬ  
弓補ひを故ハ赤<sup>トシボウ</sup>藤の黒鏡ハ名<sup>トシボウ</sup>養成唯痺の薬とて之  
と諸人知りしハ用ひ若<sup>トシボウ</sup>常<sup>トシボウ</sup>在<sup>トシボウ</sup>如<sup>トシボウ</sup>比能<sup>トシボウ</sup>事<sup>トシボウ</sup>物<sup>トシボウ</sup>も人<sup>トシボウ</sup>毎<sup>トシボウ</sup>日<sup>トシボウ</sup>  
志<sup>トシボウ</sup>り<sup>トシボウ</sup>ハ<sup>トシボウ</sup>沙<sup>トシボウ</sup>汰<sup>トシボウ</sup>せ<sup>トシボウ</sup>れ<sup>トシボウ</sup>ぬ<sup>トシボウ</sup>り<sup>トシボウ</sup>れ<sup>トシボウ</sup>極<sup>トシボウ</sup>よ<sup>トシボウ</sup>成<sup>トシボウ</sup>り<sup>トシボウ</sup>物<sup>トシボウ</sup>あり<sup>トシボウ</sup>能<sup>トシボウ</sup>く  
秘<sup>トシボウ</sup>藏<sup>トシボウ</sup>せ<sup>トシボウ</sup>り<sup>トシボウ</sup>し<sup>トシボウ</sup>事<sup>トシボウ</sup>肝<sup>トシボウ</sup>要<sup>トシボウ</sup>ハ<sup>トシボウ</sup>外<sup>トシボウ</sup>題<sup>トシボウ</sup>と<sup>トシボウ</sup>武<sup>トシボウ</sup>具<sup>トシボウ</sup>要<sup>トシボウ</sup>説<sup>トシボウ</sup>と<sup>トシボウ</sup>云<sup>トシボウ</sup>何<sup>トシボウ</sup>竹<sup>トシボウ</sup>  
俵<sup>トシボウ</sup>物<sup>トシボウ</sup>也

天正五年正月三日

高坂彈正書並之

右器具要説以玉井利往本授合

馬具寸法記

馬具寸法事

- 一 尻尾より尻たの寸尺の事一尺の長さ二尺五寸廣二尺八寸三寸半
- 一 つめりらつら拵海りり八寸長さ二尺二寸半のうへ二寸五分との下二寸五分竹のゆへとす
- 一 けりら口の長さ四寸五分廣二寸五分也といふ寸半
- 一 けりら口の寸七寸也又五分と云ふも五分と云ふも



一 身をけ刃の寸二尺八寸ありと取て行ともりさうと付し  
 一 つかうわれ寸長さ一尺二寸也廣さ二寸五分也  
 一 一の寸法より長さ二寸五分えい軍守也合して七寸五分廣  
 さ二寸五分也くと七ツ付し  
 一 かりとさみの寸法事長さ九寸廣さ八寸にせ入也  
 又二寸五分と付し  
 一 一の寸法二丈一尺之幅とさひかにせ入也  
 一 だあとの寸二丈一尺也尤右へうの幅  
 一 手纏寸法より長さ六尺三分と  
 一 一の幅の長さ六尺五分と入也

一 尾ゆくりれ寸長さ四尺五分とと入へ也  
 一 一の幅ありれ寸長さ七尺之もあへのとら長さ同也  
 一 一の幅あり九寸一の廣さ六寸二分と入也  
 一 一の幅あり寸法より三尺八寸の幅のようにつけてあり  
 一 一の幅あり寸法長さ一尺五分也是二のよはへは  
 一の幅あり五尺九寸にせ入也  
 一 一の幅あり寸法の長さ二尺五分也廣さ五分也  
 一 一の幅あり寸法の長さ一尺五分也廣さ五分也  
 一の長さ四分五分也  
 一の長さ一分の長さ一尺二寸也之の長さ一尺五分と







卷之三

千四

一尺三寸二寸五分と銘しうらへし用さまへまこがし  
 不同の條ありてはよきつひにおもひなりて思て道具  
 の同じの事なるをとお結造りて寸法と銘して  
 一馬よりおぬて百病と銘して又よき思なり  
 ともありて寸尺の尺具ともつくる成りてい  
 や油ひせぬへまや熱して不お急の道具とて用處  
 かし次仍ぬ件

一馬屋の間の七尺五分の寸  
 とすすやちの絲赤板より一尺の寸に可歩也  
 一くわもともせのうらへ平の守二が長さの寸其の二に八

すあり

一夜に善れ言ふ三尺の寸より廣さ三尺二寸同さくハセツ又九寸

一籠もれ魚ハ 紅梅色 白也以外の色ハ何

一軍陣のびらけしやう友とつし事とるはハ常も

ち取う友のゆふて定は主の事よもてつし

一ひられ寸法の事一尺七寸五分の寸の寸六寸完より

上長さめ分也とらくはむらハ官領と由持はるる又作の

根のむらあ一の敷本にもちてしうにんまの也

一馬れ寸の事

一寸 二寸 三寸 四寸 五寸 六寸 七寸 八寸 九寸

卷之三

千五



新刊

今

八寸 九寸 五尺二寸おとく云へきなり

一馬込館の事

考同 田録 漢詠 豊 本ノマ け吳名のりる人カキ

一伝と子細なるる書状にけ赤い去裁の事 任内状は

純清系同松永淳正が所久秀より伊勢守身考へ

為り條の事

一馬込の事

一四條の巻より云用ひの

一足袋のゆ葉内より云用ひの

一あり物のわいりやうの事 しうしん

一馬込の事

一袴の事

一馬の上の事

一馬の事

一馬の事

一馬の事

一馬の事

一馬の事

一馬の事

一馬の事

新刊

今



一 小みろとまきろへきをりけりけり上下ふとハ云用をり

一 唐りつまはく人乞のり 各儀の字雅成ゆきこぬらうぬまは 引ハ馬持しき乞のり 長刀をもち

一 唐せふぬ入平りつまはく人乞のり 長刀をもち

一 唐りあきれつちりまへ地乞事

一 唐つしきハははのうまへ地をき乞笠持よ持乞

一 下馬りてハ山き方と自身持り乞

一 唐車よせうくハひつしきとれと持せま戸乞事

一 下馬まてハわたりち取申乞 長刀をもち

一 唐りあきれつちのたの下にまへ乞

一 唐りつちり袋物きくま乞事 長刀をもち

一 唐り一婦り下持乞

一 唐り大なるハ乞事乞

一 笠物ハ常たき乞十徳き物乞

一 中間小乞つち取事

小乞 小乞 弓袋 弓袋 中写 中写

馬上 一原乞 笠持

長刀をもち 小乞 小乞 長刀 中写 中写 中写



存分合點也

二月朔日

伊勢守五判

一書よ何れ此の口又公何も可お定め也

一此ら切符の事何をも致さる事とて用はつら留  
いふ所は夫々之等の時月日等々可分り之様  
ありしとていふはつらへ又をいふらりい略也

一市估の時下され此の御方の役人下るの立玉と見  
合はるあり久の残り玉も十騎も同座りにあり也

おる成あの人をさくとして下るはりありしは後よく

まはるはこれの口々の役人下馬はつらおさくる事とあり

またありしはともよく是は元二騎三騎ありし事と

とも更ふ書はさして下るの立所とていふは此の

役人下る事おのふなり自然あやうして二人三人ある事

ゆゑおのふ此方の役人乗る事と残り元はつらとて各

つら乗る事と

一下され此をいふはつら貴成の事とていふはつら

ともいふはつらありし事とていふはつら此の役人

り見合はる事とていふはつら此の役人



一八幡おとく清系詣の時に清級の役人よりうつらと付く  
わらわらんとす時ははたかたと右にあらはれりうらむはと雑色まを  
殿まもくも自ら之清級の名をいふは又くうれりものと  
も作

一云方様の内水まの六人よおまの六人より外にあらはれり  
写心傳をいひまとも水まの六人より外にあらはれり只二人三  
人の写心傳の

一笠持くおまのゆいりも此人史まをまの其より外り  
別のつていふはうらむはまのいふは

一清信の時をいふはまのいふは

おとくははとらむらへは時は昔とまをまのいふはあ  
もあ若い

一清のつていふはまのいふは

新造の祝をいふはまのいふは

一はら切甘の時にあらはれりまのいふは

仕也

一馬のつていふはまのいふは

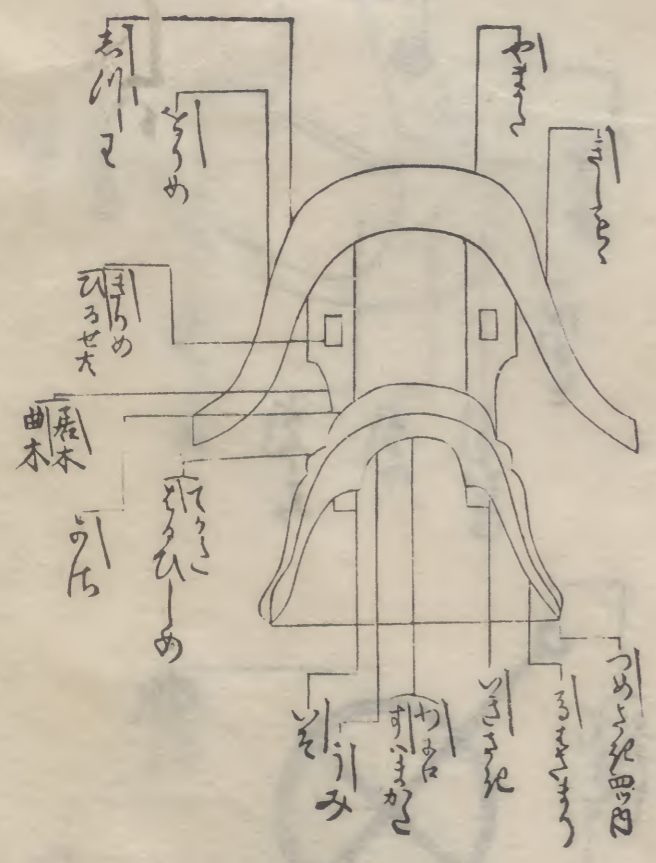
一馬のつていふはまのいふは



白鳥	豹皮	食器	繪	護	金襴	引膳	當	引	一
一	一枚	一	一幅	一頡	一端	一具	一足也	一	一具
干鯛	鞆	花籠	香爐	小袖	番合	鞠	切付	籠	びら
二十	二掛	一	一	五室	一	一足	一口	一	一箱
値	手繩	盃臺	俵子	川合	盒	一	鞠履	一	引
三	二箱	一	一端	十帖	一枚	女中	一	口	総股
荒卷	初丸	折	柳	の	ハ	ハ	一	幕	一具
二十	三巻	十合	女荷	ハ	ハ	ハ	一	一帖	一掛

練貫 五重 抹茶壺 一  
 程冊 百枚 粽 二巻  
 香奩 二 磁子 一  
 鞍 銳 輿 名取事

右野紙 二十束 茶長紙 十束  
 初躰 一尺  
 引 一具



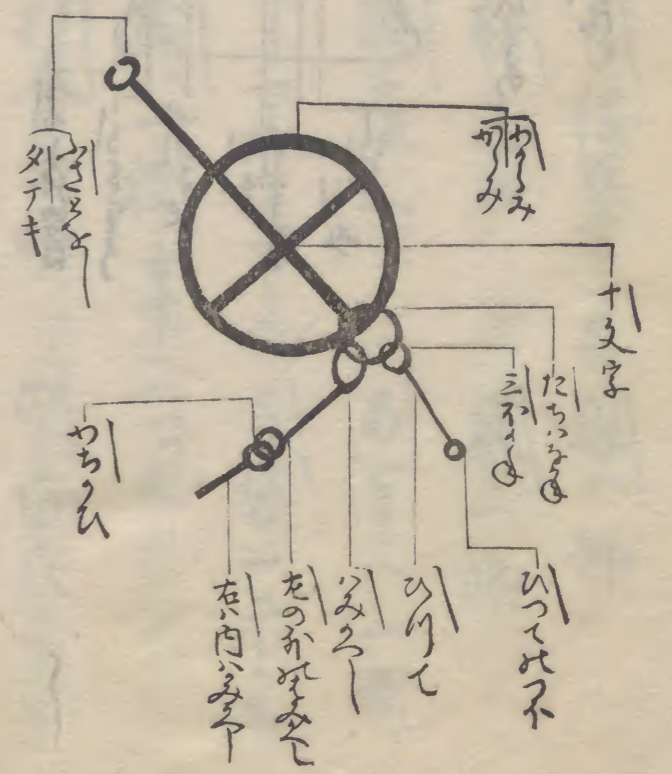
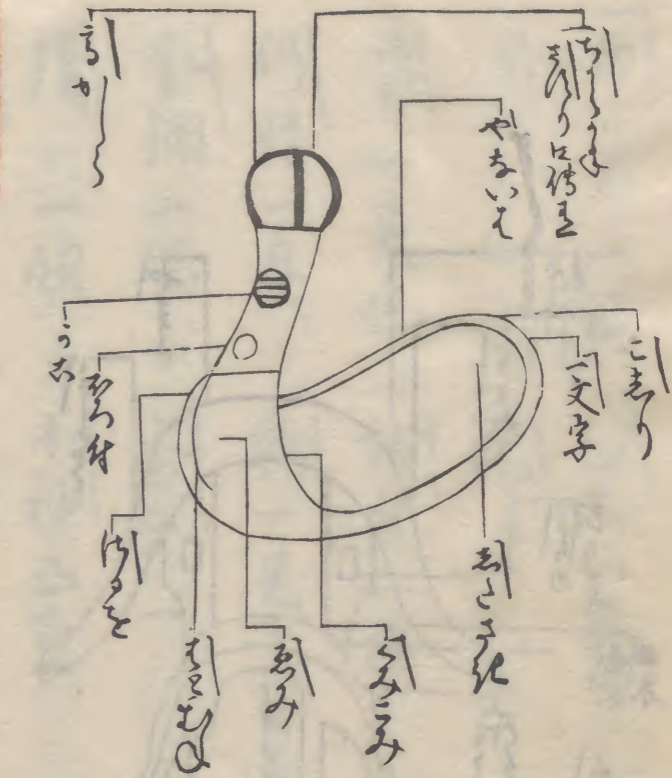




羣書類從卷第四百廿四

右馬具寸法記以松岡辰方本校合

右以伊勢兵庫既貞為自筆之字



昭和九年四月  
内閣文庫



